

正確さと実際的な解決策をチームにもたらす C スタイル

著者：Robin Kellogg (Instructional Designer and Trainer, John Wiley and Sons)

(転載、引用可。ただし出典を明記して下さい。)

Everything DiSC®についてお話する 4 回シリーズの最終回です。前回までの 3 回では、3 つのスタイルについてその行動の好みと傾向（これらが職場体験を左右しています）を見てきました。これまでに検証した 3 つは、主導性を行使する D スタイル、安定していて穏やかな S スタイル、そして人を感化影響力を重視する i スタイルです。この最終回では、慎重さが特徴の C スタイルを検証します。C スタイルの人は、正確さと穏やかな勤勉さ、実際的な解決策を見つける能力で職場に貢献します。

C スタイルを深く知る

C スタイルの人は、質の高い成果を確実に生むために、すべてにおいて「**正確**」さが大切だと考えます。そして物事をきちんと進めるために役立つことなら何でも進んでします。仕事を雑に済ませることはきっぱりと拒否し、むしろ時間をかけて優れたシステムを作り、綿密な分析をします。そして客観的な事実に基づいた論理的な判断をしようとします。C スタイルの人は自制心があり、慎重です。着実に物事が進む職場環境を好み、混乱した不安定な環境で仕事の質を脅かされることを嫌います。リスクのあるアイデアやすばやい決断には懐疑的で、常に一貫した成果を出すためには「**着実**」な維持が重要だと考えます。

論理的で規律正しく、グループの中ではしばしば懐疑派です。チームメンバーがより慎重な判断をするよう進んで説得に「**挑戦**」し、問題や欠点を指摘することも厭いません。すべては間違いを起こさずに仕事を進めるためです。チームに貢献する過程では、アドバイスをしたり、専門知識と経験をシェアしたりする機会があります。しかしプロジェクトやアイデアを深く分析する C スタイルの傾向から考えると、たぶんそういったことよりも一人で働くことを好むでしょう。

C スタイルの人の正確さへのこだわりは、あらゆるチームや部門、組織の成功に欠かせないものです。仕事に対して体系的で客観的なアプローチをするので、彼らが作り、守ろうとする規範が、効率性が良く質の高い成果を生む助けとなるのは間違いありません。しかし、その正確さへのこだわり（あるいは完璧主義と言ってもいいかもしれません）のために、自分が間違ったときには特に厳しく自分を責めるかもしれません。それが傍目には前進を阻む障害と見えることがあります。

すばやく行動し、直感的な決断をする傾向がある i スタイルのチームメンバーと違い、C ス

タイルの人は慎重で深い分析をするため、「分析麻痺」に陥る可能性があります。また、論理と事実が無視されていると思ったときには、それとなく不快感や怒りを表すこともあります。同様に、主導的な D スタイルの人と働くときには、目標を早く強引に達成しようとする面や、そのペースの速さと行動優先主義を受け入れるのがかなり難しいかもしれません。

DiSC プロファイルをどう利用するか

このように、C スタイルが示す好みは安定した環境で働くことであり、自分の論理が理解され、その高い規範が評価されるのを望む、というものです。しかし実際の個人はどんな職業であれ、どんな環境であれ、成功する可能性は必ずあります。成功への道筋は人によって違う、というだけのことです。そしてそれは、**Everything DiSC** を使う際に覚えておいていただきたい、もっとも基本的な事実の一つです。このパワフルな自己分析ツールから得られる詳細なプロフィールは、人を決まった運命の中に閉じ込めるものではありません。

Everything DiSC Workplace®のアセスメントが提供するものは、洞察と知識です。この知識は、仕事と人生においてよりよく成功を収めるうえで、私たちが持つ可能性を解き放つ貴重なものです。自分を深く知ることで（そして他の人の **DiSC®**スタイルを知り、理解することで）私たちはチームメンバーや同僚、上司、部下との交流に適応する方法、柔軟に対応する方法を身につけることができます。そして仕事仲間とのさらに強い絆と、より健全で生産的な職場を作ることができるのです。